はじめに

安全でおいしい高品質な水の安定供給に努めるとともに、
豊かな地球環境を次世代に引き継げるよう、
環境負荷低減に向けた取組を推進してまいります。

水道事業と地球環境

気候変動による自然災害の多発に加え、将来的には人口減少に伴う料金収入の減少が予測されるなど、都の水道事業を取り巻く環境はかつて経験したことのない局面にあります。この状況を踏まえ、2020年７月に、より長期的な視点に立ったおおむね20年間の事業運営の基本的な方針である「東京水道長期戦略構想2020」を策定し、目指すべき将来の姿を実現するため、2026年３月に「東京水道経営プラン2026」を策定するとともに、「東京水道施設整備マスタープラン」を改定し、強靭で持続可能な水道システムの構築等に向けた取組を進めています。

近年、台風や集中豪雨による水道施設の浸水被害や水質悪化のほか、想定を超える冬の寒波や夏の猛暑の影響により電力需給のひっ迫が引き起こされるなど、気候変動が日本の水道事業に与える影響は一層深刻化しています。

また、水道事業は、地球が育んだ貴重かつ限りある水資源を基盤としており、地球環境と極めて深い関係にあります。このため、豊かな地球環境を次世代に引き継いでいくことは非常に重要です。一方、東京都水道局では、お客さまに水道水をお届けする過程で、都内で使用される電力量の約１％に相当する多量のエネルギーを消費するなど、環境に対して少なからず影響を与えています。

こうした状況を踏まえ、水道局では、お客さまの生活と首都東京の都市活動を支える最も重要な基幹ライフラインを担う事業者として、安全でおいしい高品質な水を安定的に供給するとともに、環境負荷の低減に向けた取組を推進してまいります。

水道局の環境施策の展開

近年、国際的な環境目標の設定や国内外における環境政策の強化など、環境を取り巻く動きが加速しています。

東京都においては、2019年５月に、2050年のCO_2排出量実質ゼロに貢献する「ゼロエミッション東京」、2021年１月に、都内の温室効果ガスを2030年までに50%削減する「カーボンハーフ」を宣言しました。2025年３月には「2050東京戦略」と「ゼロエミッション都庁行動計画」を策定し、2050年のゼロエミッションに向けた再生可能エネルギーの基幹エネルギー化、エネルギー効率の最大化、水素エネルギーの社会実装化及び気候変動適応策などの取組を強化する方針を示しています。

水道局でも定期的に環境計画を策定し、お客さまへの安定給水を前提として、幅広く施策を展開してきました。こうした東京都の動きも踏まえ、2025年３月には「東京都水道局環境５か年計画2025-2029」を策定し、４つの基本方針として「脱炭素社会の実現に向けたCO_2排出量の削減」、「循環型社会の実現に向けた持続可能な資源利用」、「生物多様性に配慮した豊かな水と緑の保全」及び「多様な主体との環境コミュニケーション」を掲げるとともに、水道局における2030年カーボンハーフ目標を新たに設定しました。目標達成を目指し、計画に掲げた取組を着実に推進していきます。

水道事業に関わる環境負荷を低減し、環境５か年計画の実効性を高めていくためには、お客さまの御理解と御協力が不可欠です。そこで、水道局の環境への取組について、お客さまへの説明責任を果たすとともに、その声を可能な限り施策に反映させていくため、毎年、環境報告書を作成・公表し、お客さまからの御意見・御感想を募集しています。

本報告書では、環境５か年計画の目標に対する取組状況と達成度を示すとともに、計画推進の仕組みや環境保全に掛けたコストとその効果についても明らかにすることにより、水道局の環境施策を広く、分かりやすくお伝えすることを目指しています。

水道局では、今後も、水道事業を取り巻く環境の変化を踏まえながら、豊かな地球環境を次世代に引き継いでいくため、環境負荷低減に向けた取組を職員一丸となって一層推進していきます。

2026年11月　東京都水道局長　安部 典子